

# 網走ほんりゅう教組

第427号  
網走教職員組合  
〒090-0836  
北海道北見市東三輪1丁目83-35  
TEL0157(31)7551  
FAX 0157(31)7559  
ab-ky@forest.ocn.ne.jp  
11月24日

## 17年間続いた

# 道独自削減終了

## 賃金確定交渉

道教組・道高教組は、十一月六日(金)、十四日(土)、十八日(水)の三回に渡り道教委と賃金確定交渉を行ってきました。道教組では、執行部や札幌近郊の単組が中心となり、賃金課題にかかわって交渉に挑みました。

二回目の交渉が始まる前、高橋知事が道議会決算特別委員会で、道独自削減については「本年度終了したい」と表明し、報道がなされました。このことは、被害を被ってきた教職員、労働組合の存在を軽んじる行為であり、遺憾の意を表明しました。また、二回目の交渉の前段には、みなさんに書いていただいた賃金署名一二七七筆(道教組三七〇筆)を提出しました。

最終交渉では、十七年続いた道独自削減が、「一般職員」については、来年三月をもって終了するとの回答が独自削減については、二〇一六〇一七年度の二年間、大規模校(三種)の校長は七%(本年度八%)、それ以外の校長と教頭は三%(同七・四%)と若干削減率は圧縮されますが、道独自削減が継続されます。「人件費に頼らない」道財政を目指すのであれば、この方針はおかしいと考え、道教組は管理職への削減終了も訴えています。最終交渉のその他の質問と回答については次の通りです。

〈道人事委員会勧告の取り扱い〉  
給与改定は勧告どおり実施する(月例給五七八円、ボーナス四・一〇月、初任層二、五〇〇円、その他一、一〇〇円程度改定)。  
給与改定の差額支給を道で独自判断できず年内支給とならないことは、教職員を励ます回答とは言えない。不満が残る。

〈単身赴任手当について〉  
単身赴任者が多い実態を踏まえ、全額前倒し改定にならなかつたことは不満。また、別居の事情にかかわらず、手当を支給するよう、支給要件の緩和を求める。

〈再任用について〉  
来年度から無年金期間が二年間になる。今でも教員の再任用率は低い。道教委は希望者の再任用を保障すべきだ。道教委には、道人事委員会が報告したように「組織の実態を踏まえた新たな再任用制度」を構築するよう強く求めておく。



11月21日(土)、第44回まなびバが網走教育会館で行われました。全道合研の還流を中心に、日頃の学級づくりや授業づくりについて熱い議論が行われました。この日の参加者は全道合研に参加した4名(大坪先生、小林先生、丸尾先生、山本先生)と若狭先生、和田先生。また、全釧路教組の斎藤鉄也先生もレポートを持って駆けつけてくれました。この日のレポートは5本。全道合研ではたくさんのレポートがあり十分な討議をとれなかった発表も、十分討議をすることができました。小林先生のレポートからは国語科における「単元を貫く言語活動」についてみんなで話し合いました。言語活動を充実させるということが、発表物やまとめありきの授業になっているのではないか。一つ一つの言葉に着目し、じっくりと物語を読み取っていく活動を大事にすべきではないかという話がなされました。大坪先生はことばの教室の実際について、和田先生はこだわりが強いZくんについて、山本先生はかけ算の授業についてレポートがされました。釧路の斎藤先生は初めての特別支援学級での奮闘の様子。子どもの世界に寄り添い、子どもの変化を成長ととらえることで、物語との出会いや日記指導を通して自分の世界を広げぐんぐん成長していく子どもの様子が語られました。子どもたちの成長のためにどんなことを大切にしなければいけないかを学校として共有していくことが、今後に向けて大切なことだと確認しました。夜は山本、和田、斎藤で北見の夜の町へ繰り出しました。おいしいお酒と料理を堪能しながら昼よりも濃い話をするのができ、「本当の学びは飲み会にある!」の格言通りとなりました。



北見支部では、十一月二〇日(金)に四名が参加して集会が行われました。生権速報で内容を確認したり、声明を読み合わせしたりしたあと、「私たちの要求」にそれぞれが抗議の文を書きFAXで道教組に送りました。遠軽・紋別支部では、十一月二四日(火)に四名の参加で行われ、学習、学校交流が行われ、「声」もFAXにて送付したとのこと。網走支部では二五日(水)に行われることになっていきます。

## 第2弾 ミニカードの取り組み

全ての組合員が無理なく取り組めるものとして提起したミニカードを職場の卓上に、そして写真を撮って交流しましょうの第二弾です。

今回の写真の提出期限は十二月二十六日とします。前回の取り組みの反省を生かして「写真が苦手な顔は写さない」「職員室で難しい場合は支部会議のみに一枚」など無理のない範囲でと考えております。

それでも何らかの理由でちょっと無理という場合は「このような」取り組みならばやれます」といった逆提案で積極性をアピールしてもらえると嬉しそうです。

さて、今回はミニカードとはいえ前回よりもサイズアップして「子どもたちに平和な未来を」「憲法9条こそが最大の抑止力 網走教職員組合」という素敵なものになっています。